



雑草対策（新設、改修）

立地や敷地の条件に合わせて、植物の特徴を生かしながら工法や資材を組み合わせて、雑草の管理手間を軽減する緑地を提案・施工します。

日本は、降雨と気温に恵まれていることから小さな隙間でも雑草が生え、数年のうちに手に負えないほど繁茂します。そうなってしまうと、根まで抜き取る除草はもちろん、草刈りでも労力や費用が多大になることから、不具合が生じ、美観を損ないます。

当社では

- 他の植物が生えにくくなる植物の導入
- 防草シートとの併用

などの工法を用いて、「緑地」でありながら管理の手間を軽減する提案・施工を行います。

雑草対策（新設、改修）

雑草抑制工法

草丈30cm程度のアレロパシー※を持つ植物が密に被覆することによって、その他の植物の進入を抑制する工法です。ベース植物と、ベース植物が充分生育するまでの期間を補う先行植物とが組み合わせられています。十分に成長した後は、長期間にわたって一定の景観を維持することができる緑地を形成します。

維持管理は部分的な人力除草、施肥と除草剤の散布のみになり、管理の省力化だけでなく、廃棄物の処理量（処理費）減少、刃物を用いた作業がなくなることで作業災害リスク低減などの効果もあります。

※ アレロパシーとは、ある植物が他の植物の生長を抑える物質を放出したり、あるいは動物や微生物を防いだり、あるいは引き寄せたりする効果の総称。Wikipedia2023より引用



2013/8/8 施工後約1ヵ月目



2016/8/17 施工後約3年目



2018/5/17 施工後約5年目

雑草対策（新設、改修）

雑草抑制工法【マットタイプ】

配合に特別な工夫がされている種子と、肥料、用土が一体化したマットを敷設します。

敷設当初から法面保護の機能を発揮することができ、肥料や用土の助けによって良好な発芽・成長を見込めます。



2017/4/15 施工後



2017/7/14 施工後約3ヶ月



2019/5/13 施工後約2年

防草シート併用工法

法面などの除草作業が困難な場所や、見通し確保の理由などで雑草の繁茂を強力に抑えたい緑地では、防草シートと地被植物を併用することによって、緑化面積を確保しながら美観や機能を確保し、維持管理の労力を軽減させることができます。



施工直後



約1年後